

複数ライセンス運用について

株式会社アドム

複数施設間で献立データを共有・共同運用する方法には、各自治体・施設の運用方針や ICT 環境に合わせて「献立データ共有」と「わんぱくランチデータ完全共有」の 2 つの方式があります。既存のネットワーク環境や、貴市が求める管理体制に最適な運用形態の選定を支援いたします。具体的な設定方法や運用ルールの構築については、お気軽にご相談ください。

1. 献立データ共有

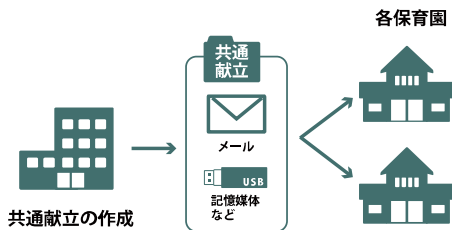
献立作成施設で献立データを出力(エクスポート)し、他施設へ配布して活用するスタイルです。

■運用の詳細

運用には、2 つの方法があります。

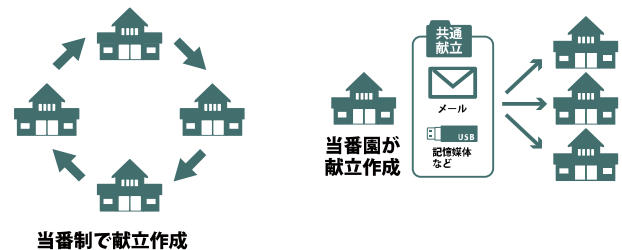
< 配信型 >

中心となる施設(担当課や主幹園)で献立を作成し、各園にデータ配信をします。



< 輪番(持ち回り)型 >

複数の施設が順番に献立を作成し、他園にデータ配信をします。



■共有方法

- ① 各施設でわんぱくランチをインストール * パソコン毎にライセンスが必要(端末変更時の移行可能)
- ② いずれかの施設で献立作成
- ③ ②の献立を出力(エクスポート)
- ④ ③のデータをメール添付や共有領域に保存して受け渡し
- ⑤ ④のデータを受け取った施設でわんぱくランチに取り込み(インポート)

■導入効果

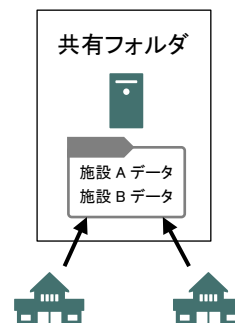
- ・ 簡単な操作で献立(日付、料理名、材料名、1人当たりの分量)の出力・取り込みができます。
- ・ 献立取り込み後、各施設で行事や人員に合わせて献立日や内容の変更が行えます。
- ・ 献立取り込み後、自動で各施設の規格に合わせた発注書を作成でき、事務時間の短縮につながります。
- ・ 各施設で管理するアレルゲン、各園児のアレルゲンを設定し、工程ごとに必要な書類を出力することにより、安全なアレルギー対応ができます。
- ・ 各施設で園児情報、身体状況を登録することで、肥満・やせの評価など、こども家庭庁等のガイドラインに沿った給食管理、報告書作成ができます。

2. わんぱくランチデータ完全共有

アクセス(書込)権限がある共有領域を活用し、全わんぱくランチでリアルタイムに同じデータを参照・編集する運用スタイルです。

■運用の詳細

各々のパソコンからアクセス・書き込みができる共有領域(共有フォルダ)を作成し、そこに「わんぱくランチ」のデータを置きます。



■共有方法

- ① 各パソコンにわんぱくランチをインストール *パソコン毎にライセンスが必要(端末変更時の移行可能)
- ② 各パソコンからアクセス(書き込み)ができる領域に共有フォルダを作成
- ③ ②にわんぱくランチデータを配置
- ④ 各パソコンから③のデータを参照できるように設定

■導入効果

- ・ 複数台のパソコンから同時アクセスができます。
- ・ 材料マスタや発注管理画面へは同時アクセスに対する制限があり、データの整合性を保ちながら安全に共同作業が行えます。

■ご注意

共有領域には、社内ファイルサーバーや施設内 LAN 上の共有フォルダをご使用ください。Google Drive・Dropbox・OneDrive 等のクラウドストレージサービスをデータの保存先として使用することはできません。